

## 入門コース概要

石に手彫りで字を彫るレターカッティング "Letter Cutting" (またはレターカービング "Letter Carving"と呼ばれる)は、現在も英国国内だけではなく、ヨーロッパの国々で続けられている伝統工芸です。この入門コースではヴィーカット "V-Cut" と呼ばれる彫り方で文字を彫ることを学びます。このヴィーカットは、ローマ帝国時代に既にその手法が確立され、当時の碑石に使われていたローマンキャピタルの文字のほとんどはこの彫り方で彫られています。

イギリスでは、エドワード・ジョンストン(1872 - 1944)の教え子だったエリック・ギル(1882 - 1940)が、そのローマ時代の伝統的手法を彼の石碑の作品に多用し、彼のワークショップ(工房)で培われたレターカッティングの精神、技術、そして教法は、彼の弟子達を通じて今なお多くの職人の中に息づいています。この入門コースは、そのギルの弟子であったデービッド・キンダスレー(1915 - 1995)の教法で主に進められます。

また、コース内では文字のレターフォーム、デザイン等を参加者同士で検討し合うクリティーク(Critique)と呼ばれるローハンブトン大学で採用されていた教法を導入し、生徒それぞれの作品について様々な側面からの向上を目指すとともに、作品作りにおける生徒の自発性を伸ばしていきます。クリティークには、同じクラスに参加される経験者の方も参加します。

## 入門コースの目的

石の彫り方だけでなく、道具や石の取り扱い方にも重点を置き、職人としての心構えを体感していただきます。

## 入門コースの内容

<工程1> 石と道具の取り扱い方 彫り方の注意点 各自持参したデザインのクリティーク

<工程2> 試し彫り デザインが終了した方は、デザインを石に写す作業

<工程3> デザインを石に写す作業が終了した方は、キーホールを彫る準備作業

<工程4> キーホール設置のために石を彫り始める

4日間コースの場合には、上記工程を順次進めていきますが、2日間の参加の場合には、この工程に沿って、キーホールの取付け終了を目標として、できるところまで進めます。

また、大阪会場では、この4工程を3日間で終了できるよう進めていきます。

## 選択可能な石のサイズ (サイズ表記: 縦×横×厚さ)

「15 × 15 × 2 cm」 または、「10 × 22.5 × 2 cm」 [選択した石のサイズをWS担当へご連絡ください。](#)

## 入門コース受講者の宿題

ワークショップで彫りたい石のサイズを上記の2つから1つ選び、そのサイズに合わせてローマンキャピタルで1単語(例えば"ORIENT"など)を、上下左右のマージンを考えながらレイアウトペーパーに書いて来てください。大体メインシステムの幅が約5mm位で、文字の高さ(キャピタルハイト)がメインシステムの幅の8~10個分の間の文字を目安としてください。もちろん、その他の大きさの文字や数字でも構いません。

## ワークショップ当日の持ち物

レイアウトパット、キッチンペーパー1ロール、カッターナイフ、カラダッシュ(CARAN d'ACHE)社の水彩用色鉛筆の白を2本(カラダッシュ社のものが手に入らない場合は日本製の水彩用鉛筆でも構いません)、HBの鉛筆2本、定規、三角定規、白または黄色のチャコペーパー(文字を石に写すため)、エアパッキンまたはプチプチの包装用ビニール(石を保護するため)100 × 100 cmを2枚、幅3cm以上のマスキングテープ、プラスチックゴーグル(目の保護のため)

既にイーゼルをお持ちの方は、ご持参ください。

専用のチズルと呼ばれる鑿とダミーと呼ばれるハンマー、そして鑿を研ぐための砥石は貸し出しいたしますが、ワークショップ終了後にお持ち帰りになりたい方には、実費にて(約1万5千円:為替レートの変動により変更有)ご購入いただけます。

➤ 石のサイズのご連絡・持ち物に関するお問い合わせは、[workshop@j-laf.org](mailto:workshop@j-laf.org) までメールでご連絡ください。